

No. 1206

「200カイリ時代」を迎えて

広くひろがる海。数々の資源を持つ海。こんな広大な海を世界中の国々が競い合って囲みこむとは、4、5年前まで想像もつかなかった。今世界は厳しい海洋の分割時代を迎えた。

福田首相施政方針演説『国連海洋法会議はなお最終的な結論を出しておりませんが、経済水域を200カイリに広げる方向は次第に動かないものとなりつつあります。政府は冷静に長期的国益をふまえ、国際協調の精神に沿って最善の解決を図る所存であります。』昨年メキシコ、ソ連が200カイリ水域を宣言、今年に入ってカナダ、EC更に3月1日からはアメリカも200カイリ水域を実施する。200カイリは約370キロ、東京・名古屋間の距離、ここにはふつう大陸棚と呼ばれる好漁場があり、これまで日本は「海洋の自由」をかかげ、自由に魚獲を続けてきた。今、この水域での自由な魚獲を規制し、魚獲量を制限しようと言うのである。今日、日本近海にはソ連漁船団が押しかけ、日本の漁民との間にトラブルさえ発生している。沿岸を巡視する海上保安庁。『ソ連漁船員の皆さん、こちらは海上保安庁の巡視船船長です。この付近は日本のまきあみ漁船底びき漁船などが多数操業している地域です。日本漁船の動向、あるいは漁具の標識に注意して事故など起こさぬよう気をつけて下さい。』

北方領土問題もあり、厳しい状況の下で操業を続ける北洋漁業。3月15日からは今後の漁業の生死をにぎるといわれる日、ソ漁業交渉が始まる。その交渉を前に日本から鈴木農林大臣が訪ソする。

漁業資源や海底鉱物資源の開発利用の問題をめぐって世界は慌ただしい動きをみせる。限りある資源の中で、水産国日本は重大な局面を迎えようとしている。